

平成22年12月

## 元氣出せよ 中小企業経営者

毎年12月に存ると中小企業経営者は憂うつになります。テレビ、新聞等で今年の冬の賞与が報道されるからです。日本の有力企業150社とか上場企業とか中堅企業では、またアンケート3,000社のうち500~600社の回答を得た結果といつても業績が悪く賞与のない会社や少ない会社は回答しません。所詮業績のよい会社の平均と存ります。2009年厚生労働省の調査だと社員数10~99人の会社の平均年俸は381万円、このうち賞与は50万円、賞与以外が330万円と存っています。古田土会計の賞与実態調査(22年夏)518社のうち賞与なしが26%、135社、支払った383社(平均社員数32人)の平均が年24,898円です。マスコミに報道されている金額と大きな隔たりがあります。約270万社といわれる企業のうち99%は中小企業で社員数は80%位は中小企業に勤めています。またゆき国民の大多数が勤めている中小企業の実態が公表されないので一部の大手企業と公務員のみの実態しか公表されないのがマスコミのコースです。中小企業の社員が誤解しないように社長は社員に説明してほしいのです。賞与のない会社が26%もあるのですが、賞与を払っているだけでも立派です。また、平均25万円以上出ているのは世間相場を上回っています。自信を持って下さい。次に、大手企業も中小企業も倒産します。大手企業、上場企業が倒産するとき、「私が悪かった社員は悪くない」と涙を流した社長はいましたが、個人財産を会社に提供したり、ましてや自殺して保険金で借金を返済した話は聞いたことがありません。段々中小企業経営者は、個人財産を担保に入れたり、個人保証して借金をします。賞与の資金は個人の担保、保証のもとに借入しています。大手企業の社長は個人保証しません。責任の取り方が中小企業の経営者と全然違います。借入金の保証を大手企業の社長もするとはたいていど誰だけの人が存るのでしょ。当然ですが、私は大手企業であり、中小企業であり、個人の担保、保証はなくすべきであると思っています。一度失敗すると存かなくなることが現実ですから、挑戦意欲のある人がチャレンジできない社会は日本経済の損失です。未着卒業予定の57.6%しか就職が内定していないと存ります。私は企業の社会的使命は雇用の創出であると思っています。うちの経営計画書には、「人件費とは幸せを求めて働く社員たちの労働の対価です。この支払は当社の経営理念であり、目的です。」「私達は、社会に貢献するために雇用の創出することに誇りを感じます。」と書きました。社員と家族を含めると中小企業で生活している人がどれだけ日本経済を支えているか、日本経済は中小企業で持っていると言っても過言ではありません。利益が出なくて税金を払えなくても会社も存続させ、雇いを維持しているだけでも多くの人の生活を支えていることに中小企業の経営者は誇りを持って頂きたいと思っています。多くの人は責任を負いたくないか自分個人のほうがか大事だから社長に存りたくないのではないかと存ります。自分を安全な場所に置かずに常にリスクを負い、チャレンジしている経営者は立派です。それだけで尊敬されてよいと思っています。二代目経営者は大変ですが元氣な経営者でいられるように存じます。私は初代ですが時代がよかたからバブルと幸運よく成長できました。二代目さんは、社歴が長いから社員の平均年齢、平均給与が高く、コストが高い会社になつて存ります。退職金もあり、経営環境も厳しく、時代が変れるスピードも速くなつて存ります。ライバルが多く、価格競争が激しく生き残るのが大変な状況で会社社員を守るために頑張っています。中小企業の経営者は立派です。むとむとみんな存かすほめいれたい、尊敬されてよいと思つています。

元氣を出して来年もよい一年にしましょう。

古田土 満